

一般質問



既に外観は完成している黒羽・川西コミュニティセンター

市民課カウンターの改修について

質問(小池利雄議員) 本庁舎市民課カウンターを市民の皆様が利用し易い窓口に改修すべきと思いますが、市長の考えを伺います。

答弁(市長) 現在、市役所の窓口カウンターは、保健福祉部が入っている東別館、水道庁舎、湯津上支所及び黒羽支所ともいずれもバリアフリー仕様の座ったまま手続きができるローカウンターになっており、本庁舎一階のみ

がハイカウンターのままになっております。ご承知のとおり、市役所本庁舎は、建築当初から一階部分はコンクリート現場打ちのハイカウンターとなっております。ハイカウンターと観点から、何度かカウンターの改修を検討いたしました。柱や床面に固定されたコンクリートづくりのため、柱や床面の全面改修となつてしまひ、工事には長期間を要し、窓口事務に支障を来すと考え、改

修を見送つてきました。しかしながら、新おおたわらレインボープランにおきましても、障害者にやさしいまちづくりを推進するため、公共施設のユニバーサルデザイン化の推進を重点施策として位置付けており、毎年度計画的に整備を進めることとしております。ことから、ハイカウンターの一部を撤去し、ローカウンターを設置する工事を実施したいと思つております。なお、記載台につきましても、新年度予算に記載台の備品購入費を予算計上しておりますので、できるだけ早期に座つたまま記載できるものに変更したいと思ひます。



ハイカウンターの一部をローカウンターへ改修

平成二十年度予算について

質問(印南久雄議員) 平成二十年度予算において特に重視して取り組んだ点について伺います。
答弁(市長) 本市の財政は、新生大田原市のまちづくりのための経費や少子高齢化の進展に伴う医療福祉関係の扶助費等義務的経費の増加に加え、合併特例債事業を含む新市建設計画計上事業の推進により、起債残高は平成二十一年度がピークとなる見込みであり、またそれらを含む元利償

還のための公債費は、平成二十四年度にピークを迎えるものと判断しております。そのようなことから、普通建設事業費などの投資的経費については、新市建設計画計上事業に積極的に取り組むほかは、真に必要な事業を厳しく選別し、市民の幸せ度を高めるため、教育、福祉、保健、医療、介護などにきめ細かな配慮をして予算編成に心がけたところであります。この結果、対前年度比2%減の堅実型予

算編成となっておりますが、限られた財源の重点的、効率的な配分に努めたものであります。合併特例債事業では、道整備交付金を併用する事業として、市道整備九路線、黒羽統合中学校整備事業、黒羽・川西コミュニティセンター建設事業など継続事業で九事業、また新規事業として、湯津上地区保育園統合整備事業を計上し、黒羽統合中学校整備事業については、学校敷地内に屋内温水プールを整備することとし、体育の授業や部活に使用するほか、一般市民にも広く開放する施設として整備をいたします。